

第2回いわての森林づくり県民税事業評価委員会

日 時：令和元年7月26日（金）13：30～16：00

場 所：サンセール盛岡 3階 瑞雲

次 第

1 開 会

2 議 題

- (1) いわて環境の森整備事業の施工地審査について
- (2) 県民参加の森林づくり促進事業の企画審査について（第2次募集分）
- (3) 第3期終了後のいわての森林づくり県民税のあり方について

3 そ の 他

4 閉 会

いわての森林づくり県民税事業評価委員会委員名簿

(平成30年7月19日現在)

氏名	役職名等	備考
石川 公一郎	株式会社シオン 代表取締役	
岩田 智	岩手県立大学宮古短期大学部 教授	
岡田 秀二	富士大学 学長	
小山田 四一	一戸町立図書館 館長	
國崎 貴嗣	岩手大学農学部(環境科学系) 准教授	御欠席
佐藤 重昭	森林所有者(徳清倉庫株式会社 代表取締役)	
佐藤 誠司	岩手県商工会議所連合会 事務局長	
橋浦 栄一	岩手県消費者団体連絡協議会 常任幹事	
吉野 英岐	岩手県立大学総合政策学部 学部長	
若生 和江	環境アドバイザー	

(五十音順)

1 委員 10名

2 任期 平成30年7月19日～令和2年7月18日

第2回いわての森林づくり県民税事業評価委員会 県関係出席者名簿

役 職 等	氏 名	備 考
農林水産部 林務担当技監	橋 本 卓 博	
技術参事	阿 部 義 樹	
林業振興課 総括課長	高 橋 一 志	
振興担当課長	小 川 健 雄	
主任主査	田 島 大	
主 査	鈴 木 将 人	
主 事	東 智 優	
森林整備課 主任主査	廣 田 紀代子	
主 査	似 内 智 明	
盛岡広域振興局林務部 主任主査	遠 藤 步	
盛岡広域振興局林務部 上席林業普及指導員	畠 山 雅 史	
花巻農林振興センター 主任行政専門員	照 井 重 光	
花巻農林振興センター いわて環境の森整備推進員	菊 池 継 彦	
遠野農林振興センター 林業普及指導員	女 鹿 咲 恵	
宮古農林振興センター林務室 技 師	佐 藤 真奈美	
県北広域振興局林務部 主 査	上 野 覚	
二戸農林振興センター林務室 技 師	及 川 純	

令和元年度いわて環境の森整備事業 施工地選定審査基準(審査)

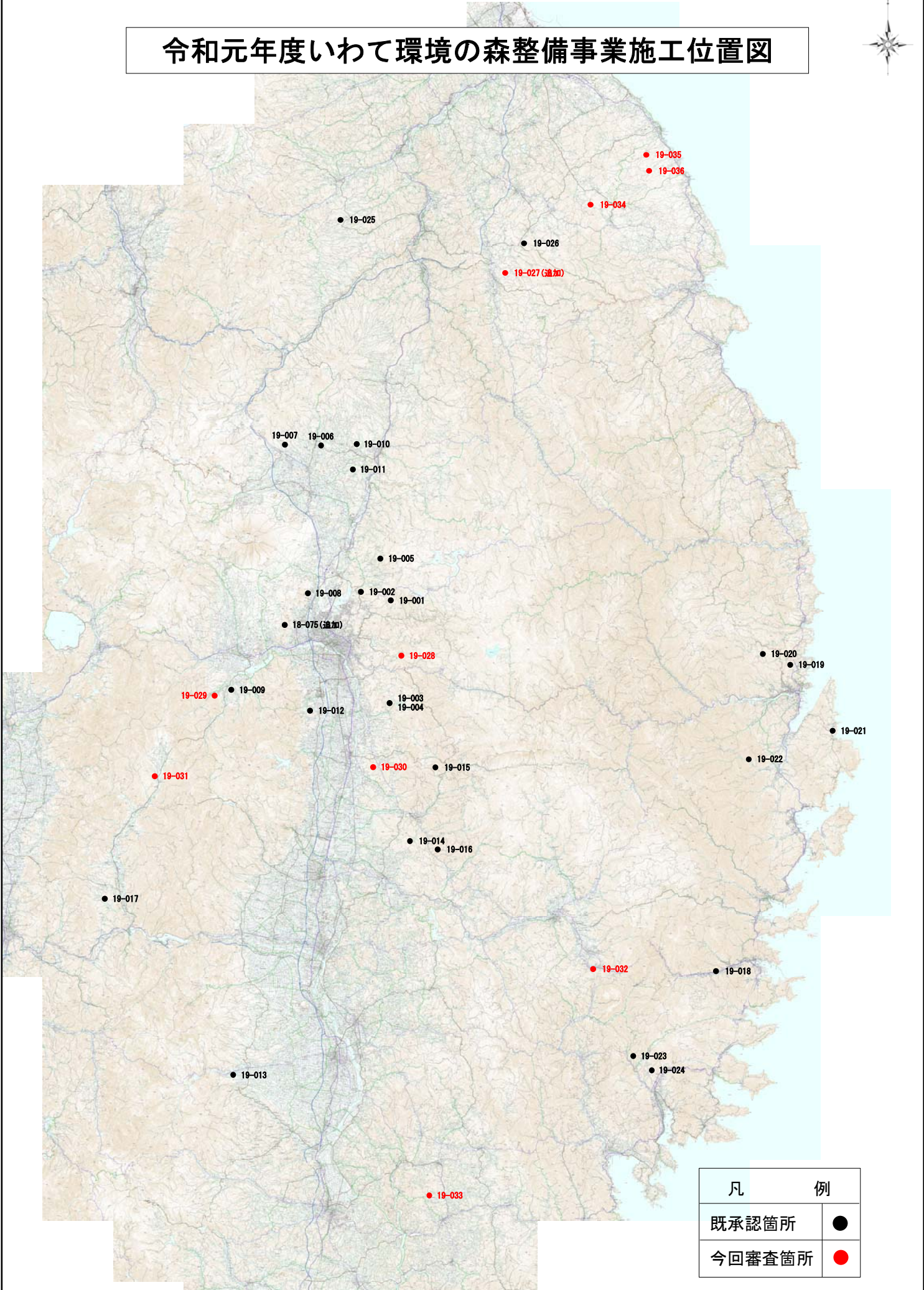
いわて環境の森整備事業の施工地選定審査に当たっては、下表に掲げる基準を満たしているものを適とする。

審査項目		審査基準
森 林 に 関 す る 事 項	事業対象森林	① 私有林であること。
		② 人工林であること。
		③ 公益林であること。 ア 水源地域等の上流域の森林 イ 野生動植物生育の場として重要な森林 ウ 自然林に戻すことによって、景観的な多様性の維持・向上を図るべき森林 エ 上記に準ずる森林
		④ 保安林の場合は以下であること。 ア 損失補償の対象となっていないこと イ 既往の治山事業施工地でないなど、治山事業の採択基準を満たしていないこと ウ 採択基準を満たしていても、一定の期間にわたって森林整備を実施できていないこと
	採択基準	⑤ 対象樹種は、原則として人工林であるスギ、カラマツ、アカマツ等の針葉樹であること。 ただし、アカマツ天然生林においても、地域において保全上重要な森林については、対象とするものとする。
		⑥ 対象齢級は、原則として4から10齢級であること。 ただし、3齢級以下及び11齢級以上であっても、地域において保全上重要な森林で、本事業の計画に加えるべき森林については、対象齢級として取扱うものであること。
		⑦ 1施工地の面積は、0.3ヘクタール以上であって、原則として1ヘクタール以上の団地であること。 ただし、団地の考え方(団地性の判断)については、各施工地の相互の間隔が概ね10キロメートル以内の範囲であるものとする。(概ね半径10キロメートルの円内にすべての施工地が含まれること。)
森林所有者に関する事項	⑧ 協定書の締結に同意していること。 (現時点では口頭による確認)	

令和元年度いわて環境の森整備事業施工予定地一覧表(補助)

連番	受付番号	市町村	大字	字	樹種	面積 (ha)	林齢 (年生)	申請者	特記事項
001	19 028	盛岡市	川目	第3地割 地内	スギ	2.75	28~49	(株)イワリン	
002	19 029	雫石町	鶯宿	第10地割夜明沢 地内	スギ、カラマツ	5.35	41~47	盛岡広域森林組合	
003	19 030	紫波町	赤沢	大内渡 ほか地内	スギ	2.28	25~48	盛岡広域森林組合	
008	19 031	西和賀町	沢内若畑	第9地割 地内	スギ	7.14	34~42	西和賀町森林組合	
009	19 032	遠野市	上郷町	第16地割 地内	スギ	5.14	24~61	岩手県森林整備協同組合	
004	19 033	一関市	千厩町磐清水	新山 ほか地内	スギ、ヒノキ	1.11	16~45	一関地方森林組合	
005	19 034	洋野町	大野	第13地割 ほか地内	スギ、アカマツ	4.05	22~31	久慈地方森林組合	
006	19 035	洋野町	種市	第57地割 ほか地内	スギ、ヒノキ、アカマツ、カラマツ	15.34	18~50	久慈地方森林組合	
007	19 036	洋野町	種市	第11地割 ほか地内	スギ、アカマツ、カラマツ	10.86	31~50	久慈地方森林組合	
028	19 027	九戸村	長興寺	第15地割 地内	スギ	1.81	19	二戸地方森林組合	追加申請(R1第1回委員会承認面積 14.97ha)
a	今回計	10施工地				55.83			
b	令和元年度	既承認面積				124.73			
c	a + b					180.56			

令和元年度いわて環境の森整備事業施工位置図



凡 例	
既承認箇所	●
今回審査箇所	●

令和元年7月26日
第2回いわての森林づくり
県民税事業評価委員会
資料No.2-1

令和元年度 県民参加の森林づくり促進事業 企画応募団体一覧表(第二次)

(金額単位:円)

番号	団体 所在地	事業区分	採択 回数	応募団体名	事業名	補助対象額(企画書)	
						H30	R元
36	八幡平市	森林学習	—	安比高原ふるさと倶楽部	あっぴ千年森で学ぶ 未来の里山森づくり	-	966,000

県民参加の森林づくり促進事業実施要領

(目的)

第1 この要領は、別表県民参加の森林づくり促進事業(以下「事業」という。)を適正かつ円滑に実施するために必要な事項を定める。

(事業の内容)

第2 この事業は、県民自らが地域で主体的に取り組む別表記載の活動を支援し、県民の森林づくりへの理解の醸成と積極的な参画を促進するものである。

(県の助成)

第3 広域振興局長は、事業の実施に要する経費について、予算の範囲内で、岩手県補助金交付規則(昭和32年岩手県規則第71号)、県民参加の森林づくり促進事業補助金交付要綱(以下「要綱」という。)、その他関係規程に基づき補助する。

(事業の企画募集)

第4 知事は、別に定める県民参加の森林づくり促進事業企画募集要領(以下「募集要領」という。)に基づき、事業の企画募集を行う。

2 別表中の活動区分の1のうち、活動内容の(1)に該当する活動については、原則として事業実施後1年以内に市町村森林整備計画が変更され公益林になることが見込まれる箇所を整備対象とする企画書にあっては、市町村長がその旨を証する書面を添付するものとする。

(応募手続)

第5 応募を希望する団体(以下「応募団体」という。)は、募集要領に基づき、企画書を所管の広域振興局長に提出するものとする。

2 広域振興局長は、提出のあった企画書について、当該内容を確認のうえ、農林水産部長に進達するものとする。なお、別表中の活動区分の1のうち、活動内容の(1)に該当する活動については、整備対象森林の区分を併せて確認するものとする。

(審査、決定)

第6 知事は、別に定めるいわての森林づくり県民税事業評価委員会における企画書の選定に係る審議結果を踏まえ、採択する企画書を決定し、その結果を応募団体へ通知する。なお、応募団体に通知する際は、広域振興局長を通じて行うものとする。

(補助金交付決定報告)

第7 広域振興局長は、要綱等に基づき補助金の交付を決定したときは、速やかに、農林水産部長にその旨報告するものとする。

(完了確認)

第8 広域振興局長は、要綱に定める事業実績書の提出があったときは、書類検査及び現地検査を行うものとする。

(実績報告)

第9 広域振興局長は、要綱等に基づき補助金を交付したときは、速やかに、農林水産部長にその旨報告するものとする。

(その他)

第10 この要領に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

附 則

この要領は、平成18年4月21日から施行し、平成18年度事業から適用する。

附 則

この要領は、平成19年4月10日から施行し、平成19年度事業から適用する。

附 則

この要領は、平成20年3月31日から施行し、平成20年度事業から適用する。

附 則

この要領は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この要領は、平成24年5月31日から施行する。

附 則

この要領は、平成26年4月17日から施行する。

附 則

この要領は、平成28年4月25日から施行する。

別表

活動区分	活動内容	備考
1 森林をつくる活動	(1) 森林整備活動	<p>① 未利用のまま放置されている里山林の再生及び新たな活用を図るための森林整備活動</p> <p>② 上下流域の住民団体等が連携して行う森林づくり活動</p> <p>③ 野生鳥獣との共生、自然植生の保全・保護を目的とした森林整備活動</p>
	(2) 森林所有者への啓発活動	森林所有者等に対して森林整備の必要性等を周知する普及啓発活動
2 森林の手入れを行う多様な担い手を育成する活動	人材育成活動	<p>県民の森林整備への参加を促すために実施する、新たに森林整備活動を行う個人又は営利を目的としない団体等を対象とした森林施業等の研修活動</p>
3 森林を学び活かす活動	県民理解を促進する活動	森林の公益的機能や森林整備の必要性などを学ぶ森林環境学習活動
4 森林資源を活かす活動	循環型社会形成のための県産材利用活動	<p>① 小学校、中学校又は高等学校の児童生徒等を対象に行われる森林環境学習と連動した教育施設における木材・木材製品などの県産材利用促進活動</p> <p>② 木材利用による環境保全効果等を周知する普及啓発活動と連動した公共的施設における木材・木材製品などの県産材利用促進活動</p> <p>③ 森林公園などの森林レクリエーションを目的とした公共的施設における県産材利用促進活動</p>
5 森林資源を沿岸被災地の支援のために活かす活動	(1) 森林資源の利用を促進する活動	森林整備活動によって産出される林産物を、沿岸被災地の支援を目的として活用する森林資源利用促進活動
	(2) 県産材の利用を促進する活動	木材利用による環境保全効果等を周知する普及啓発活動と連動した沿岸被災地における木材・木材製品等の県産材利用促進活動

県民参加の森林づくり促進事業企画募集要領

1 募集趣旨

県では「いわての森林づくり県民税」を活用して、県民の皆さんが取り組む森林整備活動や森林環境学習活動等を支援しています。

県民の皆さんのアイデアと主体的な参加による活動についての企画を募集します。

2 募集対象活動

(1) 対象となる活動（表-1）

活動区分	活動内容	対象団体
1 森林をつくる活動	(1) 森林整備活動 ※1 ① 未利用のまま放置されている里山林の再生及び新たな活用を図るための森林整備活動 ② 上下流の住民団体等が連携して行う森林づくり活動 ③ 野生鳥獣との共生、自然植生の保全・保護を目的とした森林整備活動 例) ・NPO団体や地域住民による間伐等の森林整備 ・企業による森づくりボランティア活動	市町村 各種団体 ※5 NPO団体 県内に事務所又は事業所を有する法人
	(2) 森林所有者への啓発活動 森林所有者等に対して森林整備の必要性等を周知する普及啓発活動	
2 森林の手入れを行う多様な人材育成活動	県民の森林整備への参加を促すために実施する、新たに森林整備活動を行う個人又は営利を目的としない団体等 ※2 を対象とした森林施業等の研修活動 例) ・新たな森林整備ボランティア団体を育成するための研修会の開催	
3 森林を学び活かす活動	森林の公益的機能や森林整備の必要性などを学ぶ森林環境学習活動 ※3 例) ・学校林等での森林整備等を通じた森林環境学習 ・森林環境学習の一環として実施する木工教室 ※4、しいたけ植菌体験、炭焼体験等の体験学習や関連学習会の開催	
4 森林資源を活かす活動	循環型社会形成のための県産材利用活動 ※6 ① 小学校、中学校又は高等学校の児童生徒等を対象に行われる森林環境学習と連動した教育施設 ※7 における木材・木材製品などの県産材 ※8 利用促進活動 ② 木材利用による環境保全効果等を周知する普及啓発活動と連動した公共施設 ※9 における木材・木材製品などの県産材利用促進活動 ③ 森林公園などの森林レクリエーションを目的とした公共施設における県産材利用促進活動 例) ・地元で製材加工した地元材による木製品を教育施設に設置するとともに、児童生徒を対象とした森林環境学習会を開催 ・県産材で製作したテーブルや椅子を公民館などに設置するとともに、地域住民を対象とした森林環境学習会を開催 ・県産材で製作した案内板等を公的森林公園に設置	①は市町村 各種団体 ※10 ②、③は市町村
5 森林資源を沿岸被災地 ※11 のために活かす活動 [被災地枠]	(1) 森林資源の利用を促進する活動 森林整備活動 ※1 によって産出される林産物を、沿岸被災地の支援を目的として活用する森林資源利用促進活動 例) ・森林整備活動によって生じた間伐材を薪などに加工し、燃料として被災地に提供 ・森林整備活動によって生じた間伐材を活用し、木製遊具や木製ベンチなどの木製品を製作	市町村 各種団体 NPO団体 県内に事務所又は事業所を有する法人
	(2) 県産材の利用を促進する活動 木材利用による環境保全効果等を周知する普及啓発活動と連動した沿岸被災地における木材・木材製品などの県産材利用促進活動 ※12 例) ・県産材で製作したテーブルや椅子を公民館などに設置するとともに、地域住民を対象とした森林環境学習会を開催	市町村

【対象となる活動（表－１）の注意事項】

- (※1) 活動の対象森林は、県内の民有林のうち公益林（市町村森林整備計画に定める生態系保全森林、生活環境保全森林、県土水源保全森林のいずれかに区分される森林）及び公益林になることが見込まれる箇所とします。（原則として事業実施後1年以内に該当する市町村の森林整備計画が変更されること。なお、実施団体は、市町村長がこの旨を証する書面を企画書に添付すること。）
- ただし、当該年度に他の補助事業が導入される森林は対象外とします。
- (※2) 森林所有者のほか、設立後2年以内の森林ボランティアや活動団体等とします。
- (※3) 本事業でいう森林環境学習とは、森林内での整備活動や森林環境観察活動等のフィールドワークを通じた学習、森林の役割や重要性等についてパネルや映像等を活用し、知見を有する者による講演・説明や意見交換・話し合い等により行う学習とします。
- (※4) 木工教室での製作物は「本立て」や「巣箱」等の簡易なものとし、参加者一人当たりの材料費は別表の金額を上限とします。
- (※5) 各種団体とは、非営利の団体で規約等の定めがあり、総会が開催される団体に限ります。
- (※6) 本活動は、単なる県産材木製品の設置ではなく、森林環境学習や普及啓発活動と一体的に行い、いわての森林づくり県民税の事業効果を発現させるものを対象とします。
- (※7) 教育施設とは、保育所、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、児童館及び託児施設とします。
- (※8) 本事業でいう県産材は、県内で伐採された原木を、県内で加工した丸太、製材品、集成材、合板及びフローリング^(※)とし、岩手県産材証明制度又は森林認証制度により確認した木材とし、併せて品質が確認された木材とします。
- また、木工教室で使用する木材は、県内の森林から伐り出され、加工されたことを製材所等により証明されたものであれば可とします。
- ※フローリングは、止むを得ない事情により、県内の森林で伐採された原木を、県外で加工した丸太、製材品、集成材、合板及びフローリング並びに県内の森林で伐採された原木を原材料として50%以上用いて県内で加工した丸太及び製材品から生産された集成材、合板及びフローリングを含むものとします。
- (※9) 公共的施設とは、医療施設、商業施設、官公庁施設、宿泊施設、社会福祉施設、教育文化施設、公共交通機関の施設、道路、公園、その他不特定多数の者が利用できる施設とします。
- (※10) 「4 森林資源を活かす活動」①の活動の応募団体は、市町村、民法（明治29年法律第89号）第34条に定める公益法人、社会福祉法（昭和26年法律第45号）第22条に定める社会福祉法人及び私立学校法（昭和24年法律第270号）第3条に定める学校法人に限ります。
- (※11) 沿岸被災地とは、東日本大震災での被害市町村のうち、宮古市、大船渡市、久慈市、陸前高田市、釜石市、大槌町、山田町、岩泉町、田野畑村、普代村、野田村及び洋野町とします。
- (※12) 本活動は、単なる県産材利用施設の整備等ではなく、木材利用による環境保全効果等を周知する普及啓発と一体的に行うものとし、いわての森林づくり県民税の事業効果を発現させるものを対象とします。

(2) 対象外の活動

- ① 既に他の機関等から補助・助成等を受けている、又は受ける予定のある活動。
- ② 他の事業等で導入した施設の更新に該当する活動。
- ③ 施設の整備に該当する活動。ただし、以下のものは対象とします。
 - ア いわての森林づくり県民税の事業効果等を周知・啓発するための看板の設置
 - イ 「4 森林資源を活かす活動」で実施する、教育施設や公共的施設への木材・木材製品等の設置
 - ウ 「5 森林資源を沿岸被災地のために活かす活動」のうち「(2)県産材の利用を促進する活動」で実施する木材・木材製品等の設置
- ④ 特定の者の利益になると認められる活動。
- ⑤ 政治的又は宗教的宣伝を目的として行うと認められる活動。
- ⑥ 安全対策等が不十分と認められる活動。
- ⑦ その他、当該事業としてふさわしくないと認められる活動。

3 事業実施期間

補助金交付決定の日から令和2年3月20日まで

4 応募対象団体

市町村、各種団体（団体の組織、運営等に関する規約があり、定期総会を開催する非営利団体）、NPO団体、県内に事務所又は事業所を有する法人

5 補助対象経費等

(1) 補助対象経費は以下のとおりですが、採択の際に条件等を付す場合があります。

(表-2)

費目	内容	
賃金	外部補助員賃金等	留意事項は別表（補助対象経費）のとおり
報償費	外部専門家謝金等	
旅費	外部専門家旅費等	
需用費	消耗品費、資料印刷費、燃料費等	
役務費	通信運搬費、傷害保険料等	
委託料	委託料	
使用料及び賃借料	会場使用料、バス借上料、機材借上料等	
原材料費	苗木代、木材代等	
備品購入費	機械機具等購入費	

(2) 補助対象外となる主な経費

- ① 活動団体構成員への金銭の支払と認められる経費
- ② 活動参加者への賃金、謝金、旅費、宿泊料及び報償費
- ③ 取得単価が5万円を超える物品及び備品の購入（5万円超過分は団体等の負担）
- ④ 活動場所となる森林の所有者に対する謝礼及び土地使用料

※（別表）補助対象経費も併せてご確認ください。

(3) 留意事項

- ① 賃金及び報償費は別表の金額を上限とし、上限超過分は団体の負担となります。
- ② 看板等の設置は、県民への効果的な周知が図られるものとし、華美又は高価なものとならず、間伐発生材料の活用等、経済的、効率的な設置に努めてください。
- ③ 用具用品類及び機械機具類は、使用頻度が年に数回程度の場合、原則として借り入れ（使用料及び賃借料）としてください。
- ④ 森林整備活動で産出された林産物を薪や木炭として搬出する場合は、放射性物質検査を実施し、安全性を確認してください。（参考：「調理加熱用の薪及び木炭の当面の指標値の設定について」（平成23年11月2日付け林野庁通知）

6 補助率

- (1) 1/3以内（上記2(1)の表-1中「4森林資源を活かす活動①②」）
- (2) 10/10以内（同「4森林資源を活かす活動①②」以外）

7 補助額

定額〔1団体あたりの上限は100万円（4森林資源を活かす活動③除く）〕
ただし、企画内容審査等の結果、経費の一部を査定する場合があります。

8 企画の応募

(1) 応募期間

令和元年5月15日（水）から6月14日（金）まで

(2) 応募書類

以下の様式は全てA4版縦の用紙を使用してください。

- ①【様式第1号】令和元年度県民参加の森林づくり促進事業企画書について
- ②【様式第2号】企画書
- ③【様式第3号】団体の概要 ※市町村が応募する場合は不要
- ④【様式第4号】同意書 ※活動内容によっては不要
- ⑤【その他】団体のPR資料やパンフレット等活動内容、活動実績等に関する資料

(3) 書類の提出先

応募団体の住所地为管轄する各広域振興局林務部又は農林振興センター、岩泉林務出張所

9 企画書の審査

提出された企画書は、以下の基準により、いわての森林づくり県民税事業評価委員会で審査します。

審査の過程において、追加資料の提出等を依頼する場合があります。(その際の費用は、各団体の負担となります。)

(1) 整合性

企画内容は、当事業の目的、趣旨に合致しているか。

(2) 自主性

地域住民等の自主的な取り組みとなっているか。

(3) 具体性

事業が実行可能な計画、方法、予算等で立案されているか。

(4) 効果性

活動参加者等の森林への理解や森林を守り育てる意識の向上が見込まれるか。

地域の内外への波及効果が見込まれるか。

10 企画の採否及び通知

採否は「いわての森林づくり県民税事業評価委員会」の意見等を踏まえ、県が決定します。

結果は応募団体に通知するとともに、県ホームページに掲載します。

11 補助金の交付申請

事業実施に要する補助を受ける場合には、別途補助金交付申請手続きが必要となり、補助金交付決定後から使用する経費が補助対象となります。(交付決定前に使用した経費は団体負担)

12 事業の周知等

(1) 事業の広報媒体には、「いわての森林づくり県民税」を活用した事業であることを必ず明記してください。

(2) 事業実施の際、活動参加者への説明やマスコミ等から活動内容について取材を受けたときは、「いわての森林づくり県民税」を活用して事業を実施している旨を周知してください。(事業終了後も地域の内外にPR効果が波及するよう努めてください。)

(3) 継続して事業を行っている団体は、新たに活動に参加する人を増やすよう努めてください。

【周知の例】

- ・市町村広報紙等による事業内容の周知、参加者募集、報道機関等への情報提供。
- ・チラシや製作木工品等に「いわての森林づくり県民税」活用事業と表示。
- ・活動の際に「いわての森林づくり県民税」活用事業と周知、会場内への看板等の掲示。
- ・活動時に撮影する集合写真等にのぼり旗を活用し、団体の会報等に掲載。

いわての森林づくり県民税PR用のロゴマークを作成しておりますので、団体広報紙、看板、広報等に積極的に活用してください。（電子データが必要な場合は提供します。）



・いわての森林づくり県民税を活用した事業であることの記事記載例

「この活動は、「いわての森林づくり県民税」を活用して実施しています。」

また、各種活動の際の県民税PR用の「のぼり旗」を希望する団体に貸し出しますので、積極的な活用をお願いします。



13 安全対策の徹底

- (1) 活動参加者の安全対策には、万全を期すこととし、特に児童生徒が参加する活動の際は保護具着用の徹底等、事故の防止に最大限の注意を払ってください。
- (2) 活動に際しては、特別の理由がない限り傷害保険等へ加入してください。
- (3) 森林内や屋外等で活動する際は、事前に現場の点検を実施するとともに、ヘルメット等の保護具を着用してください。
また、危害を加える恐れのある野生生物の状況確認等に努めてください。
- (4) 労働安全衛生規則等に定める安全講習等が必要な機械器具類を使用する場合は、事前に安全講習等を必ず受講し、安全に事業が実施できる体制を整えてください。
- (5) 森林整備活動等においてチェーンソーによる伐木等作業を行う場合は、「チェーンソーによる伐木等作業の安全に関するガイドライン」（厚生労働省）を踏まえ、参加者の安全確保対策・事故防止対策を徹底してください。
- (6) 活動参加者の健康状態の確認、服装・装備の点検を行ってください。
- (7) 安全対策参考資料等（ホームページ）

【公益社団法人国土緑化推進機構】

子どもたちと森のステキな出会いのために ～森林体験学習活動を安全に行うためのQ&A～

【森づくり安全技術・技能全国推進協議会】

森づくり安全技術マニュアル 等

(別表) 補助対象経費

費目	内容	留意事項
賃金	外部補助員の雇用に係る賃金	①1人1日当たり 11,000円を上限とする。 ②賃金の総額は、補助対象経費総額の1/3を上限とする。 ③散策路や登山道整備に係る賃金は、補助対象外とする。(森林整備に必要な最小限の作業道補修に係る賃金は対象とする)
報償費	外部専門家謝金等 (講師、技術指導者等)	①1人1時間当たり4,100円を上限とする。 ②外部専門家は、原則として県内の者に限り補助対象とする。 ただし、上下流の住民団体等が連携して行う活動で他県にまたがる場合や隣県の方が安価となる場合又は活動に必要な知識・経験や技術を有する者が県内に居ない場合であって、事業の目的及び内容から隣県者でなければならない理由が認められる場合は、この限りではない。 ③外部専門家を必要とする場合は、企画書に必要理由及び外部専門家の所属・職・氏名を記載すること。 ④間伐や枝打ち等の作業に係る外部技術指導者謝金は、上記上限のほか、1人1日当たり11,000円を上限とする。 ⑤活動参加者等へのお土産や記念品等の経費は、対象外とする。
旅費	外部専門家旅費等 (講師、技術指導者等)	外部専門家の旅費については、上記報償費②と同様の扱いとする。
需用費	消耗品費(事業に必要な機材・用具、事務用品等)、資料印刷費、燃料費(事業に必要なチェーンソーや刈払機等の機材燃料費)等	①ヘルメットは、計画内容等から判断し、使用頻度の高い場合に補助の対象とするが、50,000円を上限とする。なお、ヘルメットには「いわての森林づくり県民税活用事業」等と表示すること。 ②活動参加者等への粗品代、自家用車燃料費(他と区別が困難なもの)、木工教室の工具セット類、茶菓等の食糧費は、対象外とする。 ③林内作業用機材には、植物等由来成分の燃料の使用に努めること。
役務費	通信運搬費(郵送料等)、傷害保険料等	①事業の企画立案、連絡調整等の役務に係る費用で従事日数等の記録がある場合、事務局費として1団体につき10,000円を上限とし対象経費とする。 ②広告料(いわての森林づくり県民税活用事業と掲載する場合を除く)、電話料(他との区別が困難なもの)は、補助対象外とする。 ③傷害保険料は、掛金や保障内容等が記載された資料を添付すること。
委託料	委託料	委託料は、特殊技術を要する作業等で、活動団体自らで行うことが真に困難と判断される場合に限る。 なお、この場合の委託は事業の一部として実施するものとする。
使用料及び賃借料	会場料、貸切バス代、機材借上料等	①外部から調達しなければならないものに限り対象経費とし、見積書や料金表等により金額及び借用先等を明示すること。 ②活動団体構成員、地域住民及び関係団体等の協働により、刈払い機やチェーンソー等の機材を持ち寄って行う場合は、機材借上料の対象としない。
原材料費	苗木代(緑化木を含む。)、木材代、支柱代、肥料代、原木材、種駒代、活動PR用看板、木工教室材料費等	①苗木のうち、緑化木の購入については、事業趣旨及び活動計画に照らし、適正と判断された場合に限る。 ②木工教室の材料費は参加者1人当たり1,500円を上限とする。 ③活動周知用看板は、華美、高価なものとし、看板には「いわての森林づくり県民税活用事業」と表示すること。
備品購入費	チェーンソー等の機械機具等購入費 (備品の法定耐用年数以上にわたり事業計画を企画する場合に限る)	①備品は、性質形状を変えず、長期間の使用に耐えうる物品で取得単価が10,000円以上のものとする。ただし、取得単価が50,000円を超える分については団体等の負担とする。 ②備品は、森林づくり活動に使用する機械機具等を対象とし、使用頻度が低い物品やパソコン、デジタルカメラ等、補助事業以外に汎用性がある物品は対象外とする。 ③備品購入費の総額は、補助対象経費総額の1/3を上限とする。 ④備品購入後は、管理台帳を整備し、関連書類と併せて適切に保管すること。

※上記経費は社会通念上妥当な額で、活動に必要な最小限度のものとする。

※上記単価には所得税や消費税等を含むものとする。

様式第1号

年 月 日

岩手県知事様

(団体名)

(代表者 職・氏名)

印

(所在地) 〒

(電話番号)

令和元年度いわての森林づくり県民税県民参加の森林づくり促進事業企画書について
標記について、募集要領に定める各規定に同意の上、下記のとおり関係書類を添えて提出します。

記

- 1 【様式第2号】企画書
- 2 【様式第3号】団体の概要
- 3 【様式第4号】同意書
- 4 【その他】 団体のPR資料やパンフレット、活動内容、活動実績に関する資料

企 画 書

団体名

1 事業名

[活動区分:](募集要領2(1)の活動名を記載。複数活動を組み合わせる場合は主たる活動を記載のこと。)

2 事業目的

3 事業の効果(事業により期待される効果を記入。継続実施の場合は、実施した効果も記入すること。)

4 事業内容

(1) 活動内容

(2) 森林資源を活かす活動に供する森林資源等

(「4森林資源を活かす活動」及び「5森林資源を沿岸被災地支援を活かす活動」の場合に記入すること。)

ア 品目

イ 数量

ウ 設置(搬入)場所

エ 設置(搬入)する場所の所有者又は管理者

オ 設置(搬入)後の活用方法

(3) 普及啓発等の内容

ア 事業実施の周知方法

イ 「いわての森林づくり県民税」活用事業であることの周知方法

ウ 対象森林の活用方策〔1(1)森林整備活動の場合に記入すること。〕

エ 活動実施後の普及啓発方法

5 事業実施場所(位置図を添付のこと。森林整備活動を伴う場合は縮尺5千分の1程度の区域図も添付のこと。)

広域振興局等確認欄	公益林 ()
-----------	---------

※森林整備活動を伴う場合、広域振興局等が森林区分を記載すること。

6 事業実施面積(1(1)森林整備活動の場合に記載することとし、実際に整備する面積を記載のこと。)

7 参加者予定数等

(1) 参加予定者数(延べ人数の場合は延べ〇人と記載すること。)

(2) 参加者の確保方法

8 対象森林の状況(森林整備活動を伴う場合に記載し、樹種及び林齢等を記載のこと。また、対象森林の写真を添付すること。)

9 事業実施計画

実施時期	実施内容	備考

10 活動を行う際の安全対策の内容(安全教育の内容、ヘルメットなどの保護具の着用、傷害保険加入、事故発生時の対応など具体的に記載すること。また、傷害保険に加入する場合は、補償内容が分かるパンフレット等の写しを添付すること。)

11 事業完了予定年月日

12 経費内訳(消費税相当額を含む)

(1) 収入の部

区 分	金 額 (円)	左記の内訳(円)			備 考
		補助対象額		補助 対象外	
		10/10以内	1/3以内		
県補助金(予定額)					
その他()					
合 計					

(1) 支出の部

費 目	内 容 (品目・単価・数量等の積算内 訳)	金 額 (円)	左記の内訳(円)			備 考
			補助対象額		補助 対象外	
			10/10以内	1/3以内		
賃 金					(必要理由等)	
報償費					(必要理由等)	
旅 費						
需用費						
役務費						
委託料					(必要理由等)	
使用料及び 賃借料						
原材料費						
備 品 購入費					(法定耐用年数)	
合 計						

※1 賃金及び報償費は、必要理由、指導者所属や職種、従事時間数等を備考欄等に具体的に記入すること。

2 委託料は、必要な理由を備考欄等に具体的に記入すること。併せて見積書等を添付すること。

3 補助対象経費の上限を超えて支出する経費については、超過額を「補助対象外」欄に記入すること。

4 (表-1)「4森林資源を活かす活動」に要する経費は、上記表中の「1/3以内対象額」欄に記入すること。

5 備品購入費は、機材等の法定耐用年数以上にわたる複数年の計画を企画する場合に計上できること。
また、単価等が記載されたカタログの写しを本書に添付すること。

団 体 の 概 要

団体名	
所在地等	〒 住 所 電 話 FAX Eメール
連絡先 (上記と異なる場合)	〒 住 所 電 話 FAX Eメール
代表者 職・氏名	職 名 氏 名
設立年月日	
設立目的	
構成員数	
活動実績	
添付書類	<input type="checkbox"/> 定款又は会則 <input type="checkbox"/> 役員名簿 <input type="checkbox"/> 活動実績資料(パンフレット、団体広報誌、関連資料など)

当団体は、以下の事項に該当する団体ではありません。

- 1 宗教や政治活動を主たる目的とした団体。
- 2 特定の公職者(候補者を含む)、又は政党等を推薦、支持、反対することを目的とする団体。
- 3 暴力団若しくは暴力団員の統制下にある団体。

団 体 名

代表者職氏名

注)市町村が実施主体の場合、本様式の提出は不要です。

様式第4号

年 月 日

(実 施 団 体) 様

森林所有者氏名

印

同 意 書

貴団体が 年度に実施する、県民参加の森林づくり促進事業において、私の所有する下記森林を使用することに同意します。

記

森林の所在地

注) 森林をつくる活動、森林を学び活かす活動のうち、森林内で活動を行う場合に提出すること。

【複数年計画を企画し、経費に備品購入費(法定耐用年数5年)を計上しようとする場合。】

(企画書 5年計画の場合の記載例)

(1~8省略)

9 事業実施計画

実施時期	実施内容	備考
令和元年度		
8月	事前準備	
9月	受講者募集広告	
10月	第1回研修(安全研修)	
11月	第2回研修(間伐実習)	
12月	第3回研修(機材補修・点検)	
1月	第4回研修(間伐実習)	
2月	第5回研修(間伐実習)	
年度	(以下はそれぞれの年度での実施内容を記載すること。)	
年度		
年度		
年度		

(10~11省略)

12 経費内訳(消費税相当額を含む)

費目	内容 (品目・単価・数量等の積算内訳)	金額 (円)	左記の内訳(円)			備考
			補助対象額		補助 対象外	
			10/10以内	1/3以内		
賃金	危険箇所伐採作業(〇〇森林組合) @11,000円*1人*1日(8時間)	11,000	11,000			0.5ha作業
報償費	間伐指導者謝金(〇〇会代表者) @11,000円*1人*1日(8時間)	11,000	11,000			(理由) 当団体には間伐作業 を安全に指導できる実 務経験者がいないた め (所属・職・氏名) 〇〇地方森林組合 技術指導課長 〇〇氏
備品 購入費	チェーンソー(@70,000円×3台)	210,000	150,000		60,000	耐用年数3年 見積書添付①
合計		232,000	172,000		60,000	

令和元年度 県民参加の森林づくり促進事業 審査要領

(目的)

第1 この要領は、平成30年度県民参加の森林づくり促進事業の補助対象団体等を選定する企画審査について、必要な事項を定めるものとする。

(審査実施機関)

第2 審査は、いわての森林づくり県民税事業評価委員会設置要綱第2条により、いわての森林づくり県民税事業評価委員会（以下「委員会」という。）において行う。

(審査方法等)

第3 審査は、県民参加の森林づくり促進事業企画書及び関係書類等により行うこととし、必要に応じて企画応募団体（以下「団体」という。）に聞き取りや追加資料を求めることとする。

2 審査項目

(1) 整合性

団体の活動内容が別表に掲げる活動内容の趣旨に合致しているものであること。

(2) 自主性

地域住民等の自主的な取組となっていること。

(3) 具体性

事業計画が実行可能な方法、計画及び予算等で立案されていること。

(4) 効果性

森林への理解が深まるとともに、森林を守り育てる意識の向上や地域内外への波及効果等が見込まれること。

3 審査は、各委員が別紙審査票への記入により行う。

(1) 整合性は次のとおり判定する。

可・・・応募内容が選定対象活動として認められる。

否・・・ ” ” 認められない。

なお、「否」と判定した場合はその理由を記載する。

(2) 自主性、具体性及び効果性は、改善点や疑問点の意見等がある場合にのみ記載する。

(3) 企画の選定は、各委員の審査結果に基づき、委員会の合議により行うこととする。

ただし、委員の過半数が整合性について「否」と判定した企画は選定しない。

(4) 事業として選定された場合でも、経費の精査や縮減等の条件を付すことがある。

(結果通知)

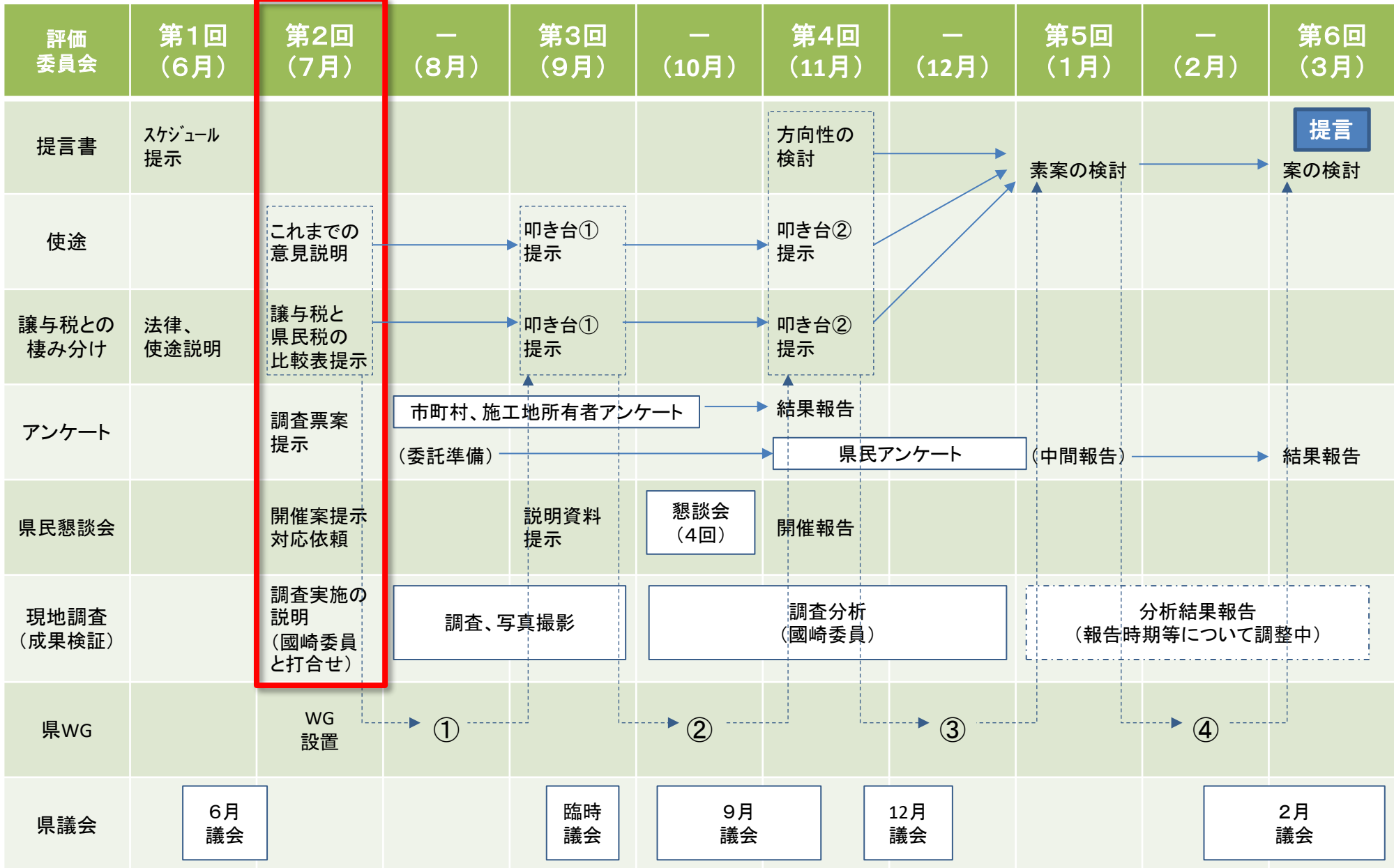
第4 知事は、委員会の選定結果に基づき、補助対象事業を決定し団体に通知する。

【別表（第3関係）】

活 動 区 分		活 動 内 容
1 森林をつくる活動	(1)森林整備活動	①未利用のまま放置されている里山林の再生及び新たな活用を図るための森林整備活動 ②川上・川下の住民団体等が連携して行う森林づくり活動 ③野生鳥獣との共生、自然植生の保全・保護を目的とした森林整備活動
	(2)森林所有者への啓発活動	森林所有者等に対して森林整備の必要性等を周知する普及啓発活動
2 多様な担い手の育成活動	人材育成活動	県民の森林整備への参加を促すために実施する、新たに森林整備活動を行う個人又は営利を目的としない団体等を対象とした森林施業等の研修活動
3 森林を学び活かす活動	県民理解を促進する活動	森林の公益的機能や森林整備の必要性などを学び、将来の森づくり活動につながる森林環境学習及びこれと連動した活動
4 森林資源を活かす活動	循環型社会形成のための県産材利用活動	①小学校、中学校又は高等学校の児童生徒等を対象に行われる森林環境学習や県産材利用意義の理解を深める取組と連動した教育施設における木材・木材製品などの県産材利用促進活動 ②木材利用による環境保全効果等を周知する普及啓発活動と連動した公共的施設における木材・木材製品などの県産材利用促進活動 ③森林公園などの森林レクリエーションを目的とした公共的施設における県産材利用促進活動
5 森林資源を沿岸被災地のために活かす活動 [被災地枠]	(1)森林資源の利用を促進する活動	森林整備活動によって産出される林産物を、沿岸被災地の支援を目的として活用する森林資源利用促進活動
	(2)県産材の利用を促進する活動	木材利用による環境保全効果等を周知する普及啓発活動と連動した沿岸被災地における木材・木材製品等の県産材利用促進活動

いわての森林づくり県民税あり方検討のスケジュール

令和元年7月26日
第2回いわての森林づくり
県民税事業評価委員会
資料No. 3-1



いわての森林づくり県民税と森林環境税・森林環境譲与税との比較等について

I. 森林環境税及び森林環境譲与税に関する法律（平成31年3月29日制定）の概要

1 制度の趣旨

パリ協定の枠組みの下におけるわが国の温室効果ガス排出削減目標の達成や災害防止等を図るため、森林整備等に必要な地方財源を安定的に確保する観点から、森林環境税及び森林環境譲与税を創設する。

(1) 森林環境税

令和6年度から課税され、納税義務者から個人住民税と併せて年間1,000円が国税として徴収される。

(2) 森林環境譲与税

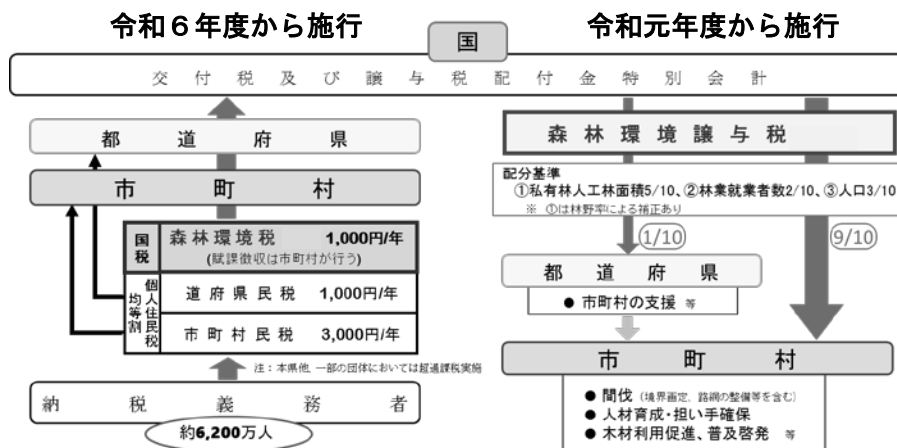
令和元年度から前倒しで市町村及び県に譲与される。

令和元年度から令和5年度は、特別会計借入れにより譲与され、借入金は令和6年度以降の税収の一部で償還する。

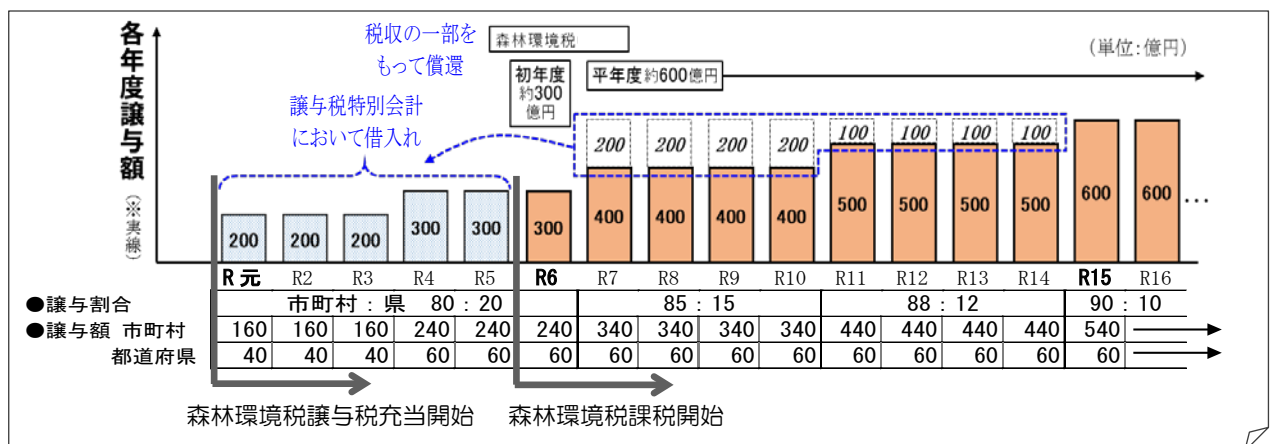
市町村と都道府県の剰余割合は、市町村が総額の9割、都道府県が総額の1割で譲与される。

当初は、経過措置として都道府県への譲与割合を2割とし、段階的に1割に移行する。

○制度設計イメージ ※林野庁資料より



○森林環境譲与税の譲与額と譲与割合（全国） ※林野庁資料より



2 森林環境譲与税の用途について（総務省：法律の概要より）

(1) 市町村

間伐や人材育成・担い手の確保、木材利用の促進や普及啓発等の森林整備及びその促進に関する費用

(2) 都道府県

森林整備を実施する市町村の支援等に関する費用

Ⅱ. 森林環境譲与税の市町村及び県の使途

(1) 市町村の使途 (H31. 4時点)

○ 調査対象 (全 33 市町村) [複数回答]

事業区分	市町村数	割合
1 意向調査、境界確認等	26	79%
2 森林整備	13	39%
3 人材育成・担い手対策	15	45%
4 木材利用・普及啓発	10	30%

※ 林野庁調査 (H31 年 4 月) に対する市町村回答内容を整理したもの。

※ 1 事業につき、1 項目のみ選択するため、複数の項目に寄与する事業はカウントされない。

上記のほか、6 市町村が将来の事業実施に向けて全額を基金に積み立てる予定。

(調査項目別内訳)

区分	アンケート項目	市町村数	割合
1	① 意向調査の準備作業	19	58%
	② 意向調査	13	39%
2	③ 私有林整備	3	9%
	④ 公有林整備 (財産区有林含む)	3	9%
	⑤ 森林保護対策	2	6%
	⑥ 林道・林業専用道の整備等	9	27%
	⑦ その他 (森林整備)	3	9%
3	⑧ 担い手確保	2	6%
	⑨ 林業就業者の育成	3	9%
	⑩ 専門員の雇用	11	33%
	⑪ 新たな組織の設立		0%
	⑫ その他 (人材育成等)	2	6%
4	⑬ 木造公共建築物等の整備・内装木質化	1	3%
	⑭ 地域における木質バイオマス利用推進	4	12%
	⑮ 森林・林業・木材普及活動等	7	21%
	⑯ その他 (木材・普及啓発関係)	3	9%

(2) 県の使途

県への配分額 125,000 千円（試算額）を森林環境譲与税の受け皿として設置した森林整備等支援基金に積み立て、以下の事業に対し、基金を取り崩して実施する。

（単位：千円）

事業名	概要	事業費	うち 基金繰入金
森林管理システム構築推進事業費	平成31年度からスタートする森林経営管理制度（新たな森林管理システム）の着実な運用を図るため、各広域振興局に専門職員を配置し、市町村が行う業務を支援	19,885	19,852
スマート林業推進事業費	森林資源を活用し、林業の成長産業化を実現するため、航空レーザ計測等の I C T を活用したスマート林業技術の導入を推進	15,431	13,431
いわて林業アカデミー運営事業費	新たな林業就業者を確保するため、林業に関する知識・技術を習得できる「いわて林業アカデミー」を運営	69,604	67,576
いわての県産木材利用促進事業費（需要創出・販路拡大事業）	県産木材の新たな販路拡大を図るため、製材品開発への支援や、県内事業者と大手家具メーカー等とのマッチングなどを実施	2,702	2,702
いわての県産木材利用促進事業費（木造建築設計技術者等育成・需要拡大事業）	県産木材の新たな需要創出を図るため、県産木材活用住宅等の P R、木造建築設計技術者等の養成、木造建築アドバイザーによる技術指導等を実施	3,296	3,296

III. いわての森林づくり県民税と森林環境税・森林環境譲与税との比較

項目	いわての森林づくり県民税	森林環境税・森林環境譲与税（法律の概要）
制度趣旨	・森林の有する <u>公益的機能の維持増進及び持続的発展</u> のために実施する森林環境保全	・温室効果ガス削減に向けた <u>森林吸収源対策や災害防止</u> ・ <u>森林経営管理制度</u> の運用
納税義務者	・個人 ・ <u>県内に事務所のある法人</u>	・個人
課税額	・個人：1 千円／年 ・法人：2 千円～8 万円／年	・個人：1 千円／年
県民負担 （県民税は R 元見込の税込）	・個人：6 億 400 万円 ・法人：1 億 5,400 万円 ・計：7 億 5,800 万円	・6 億円程度 （納税義務者数 607 千人 ×森林環境税 1 千円/年）
県収入 （県民税 R 元見込） （譲与税 R15 年度）	・7 億 2,754 万円 （税込から市町村徴収取扱費を控除）	・ 県 ： 1 億 8,400 万円 ・ 市町村：16 億 5,400 万円 ・ 計 ： 18 億 3,700 万円
使途	・ <u>強度間伐</u> （混交林誘導伐） ・森林づくりへの県民参加の促進 ・森林環境教育 ・普及啓発	・ 県：森林整備を実施する市町村の支援等に関する費用 ・ 市町村： <u>間伐</u> や人材育成・担い手の確保、木材利用の促進や普及啓発等の森林整備及びその促進に関する費用

いわての森林づくり県民税次期対策に係るアンケート調査について

1 県民意識アンケート

(1) 調査の趣旨

「いわての森林づくり県民税」(以下「県民税」という。)を活用した、これまでの森林環境を保全するための取組の評価と今後の施策のあり方、また県民税の次期対策の検討に資するため、県民の方々を対象としてその意識と意向を明らかにするため、県民意識アンケート調査を行う。

(2) 調査の対象

岩手県内に居住する18歳以上の男女

【調査対象者2,000人(選挙人名簿等から無作為抽出)】

(3) 調査の時期

令和元年11月下旬～令和元年1月中旬頃

(4) 調査の方法

専門業者に委託して実施

設問票によるアンケート調査(郵送法)

- ① 県から、「いわての森林づくり県民税」による取組の概要に関する資料と併せて、調査依頼及びアンケート調査票を対象者あてに送付
- ② 当該アンケート調査票を対象者から回収
- ③ 回収調査票を集計・取りまとめ

(5) 調査内容

前回(平成26年度)に実施した「いわての森林づくりに係る県民意識アンケート調査票」の内容を基本とし、主に次の項目について調査する。

- ア 森林に対する親しみ
- イ 森林に期待する働き
- ウ 森林環境保全のためのボランティア活動の経験
- エ 県民税の認知度
- オ 県民税を活用した森林環境保全の取組に対する意見
- カ 県民税の継続に対する賛否
- キ 県民税を継続する場合に必要な取組
- ク 県民税を継続する場合の期間
- ケ 県民税を継続する場合の税額
- コ その他自由意見、要望

2 市町村アンケート

(1) 調査の趣旨

県民税を活用した今後の施策のあり方と「森林環境譲与税」との関係性の整理、また県民税の次期対策に係る町村の意向を明らかにするため、市町村アンケート調査を行う。

(2) 調査の対象

県内市町村 【調査対象者 33 市町村】

(3) 調査の時期

令和元年8月下旬～9月下旬頃

(4) 調査の方法

全市町村に照会して実施

設問票によるアンケート調査

- ① 県から、県民税による取組の概要に関する資料と併せて、調査依頼及びアンケート調査票を市町村あてに送付
- ② 当該アンケート調査票を市町村から回収
- ③ 回収調査票を集計・取りまとめ

(5) 調査内容

県民税の使途や事業メニューについて、主に次の項目について調査する。

ア 県民税の使途や事業メニュー

イ 県民税を継続する場合に必要な取組

3 いわて環境の森整備事業施工地の森林所有者アンケート

(1) 調査の趣旨

これまで「環境の森整備事業」を実施した施工地の森林所有者に対して、事業実施後の森林に対する意識の変化等を明らかにするため、森林所有者アンケート調査を行う。

(2) 調査の対象

いわて環境の森整備事業施工地の森林所有者

【調査対象者 各現地機関5名程度（5名×11公所）】

(3) 調査の時期

令和元年8月下旬～9月下旬頃

(4) 調査の方法

各現地機関毎に過去の環境の森整備事業施工地の森林所有者に照会して実施

設問票によるアンケート調査（訪問または電話による聞き取り）

- ① 過去の施工地の森林所有者を5名程度抽出（実施年度が重ならないように選定）し、訪問または電話により調査
- ② 調査票を集計・取りまとめ

(5) 調査内容

環境の森整備事業実施前後の森林に対する意識・関心について、主に次の項目について調査する。

ア 環境の森整備事業実施後の所有森林に対する意識の変化

イ 施工地の今後の施業の予定

ウ 整備意欲を喚起するために必要な取組（支援策）

いわての森林づくりに関する県民アンケート調査票(案)

岩手県では、森林の環境を保全するために、これまで「いわての森林づくり県民税」を活用した取組を進めてきました。これらの成果の評価と今後の森林づくりなどの検討を行うため、今回、アンケート調査を行うものです。御協力をお願いします。

【実施機関：岩手県庁林業振興課】

【同封しています資料を御覧いただき、問1～14に対するあなたのお考え、御意見について、該当項目を○で囲むか御記入をお願いします。】

問1 あなたは、森林に親しみや安らぎを感じますか。

- 1 とても感じる
- 2 ある程度感じる
- 3 あまり感じない
- 4 ほとんど感じない
- 5 わからない

問2 あなたは、森林にどのような働きを期待していますか。特に期待する内容を3つまであげてください。

- 1 木材等を生産する働き
- 2 二酸化炭素の吸収などによる地球温暖化防止の働き
- 3 水を蓄え、浄化により良質な水を供給する働き
- 4 山崩れや洪水などの災害を軽減する働き
- 5 行楽の場の提供や人に安らぎを与える働き
- 6 動植物の生育・生息の場としての働き
- 7 その他()
- 8 わからない

問3 あなたは、森林づくりのためのボランティア活動に参加したことはありますか。

- 1 ある
- 2 ない
- 3 わからない

問4 あなたは、森林づくりのためのどのようなボランティア活動に参加しましたか。

参加したことがない方は、どのような活動や作業に参加したいと思いますか。(複数回答可)

- 1 苗木の植樹活動
- 2 苗木の成長を助ける下草刈り作業
- 3 枯れ枝を落とす枝打ち作業
- 4 樹木の成長を助ける除間伐作業
- 5 倒木や間伐木の林外への運び出し作業
- 6 その他()

問5 あなたは、岩手県が平成18年度に導入した「いわての森林づくり県民税」(個人で年額1,000円を納めていること)を知っていましたか。

- 1 名称、税額を知っており、使い道も知っている
- 2 名称、税額は知っているが、使い道はよくわからない
- 3 名称は知っているが、税額や使い道はよくわからない
- 4 名称、税額、使い道ともに知らない

問6 県では、この県民税を活用して、森林環境を保全するため、下記のさまざまな取組を行っています。この森林環境保全の取組について、今後どのようにすべきとお考えですか。

- ア 間伐による森林環境の整備(「いわて環境の森整備事業」)
..... 1 より充実 2 このまま 3 縮小 4 廃止 5 わからない
- イ 県民が行う森林づくり活動の支援(「県民参加の森林づくり促進事業」)
..... 1 より充実 2 このまま 3 縮小 4 廃止 5 わからない
- ウ 児童生徒等を対象とした森林環境学習(「いわて森のゼミナール推進事業」)
..... 1 より充実 2 このまま 3 縮小 4 廃止 5 わからない
- エ 森林づくりのための啓発・PR(「いわての森林づくり普及啓発事業」)
..... 1 より充実 2 このまま 3 縮小 4 廃止 5 わからない
- オ いわての森林づくり県民税事業評価委員会の運営
..... 1 より充実 2 このまま 3 縮小 4 廃止 5 わからない

問7 現在の「いわての森林づくり県民税」の取組を今後も継続するとした場合、どう思いますか。

- | | | |
|--------------|---|-----|
| 1 賛成 | } | 問8へ |
| 2 どちらかといえば賛成 | | |
| 3 どちらかといえば反対 | } | 問9へ |
| 4 反対 | | |
| 5 わからない | | |

問8 問7で「賛成」、「どちらかといえば賛成」を回答した方にうかがいます。継続する場合の用途はどうすべきとお考えですか。

- 1 さらに拡大すべき
- 2 このままでよい
- 3 縮小して継続すべき
- 4 わからない

問9 問7で「どちらかといえば反対」、「反対」を回答した方にうかがいます。反対の理由はなんですか。(複数回答可)

- 1 現在の森林の状態で問題がないから
- 2 森林整備は森林所有者がすべきだから
- 3 森林の環境保全に関心がないから
- 4 税負担は好ましくないから
- 5 施策の内容が適切でないから
- 6 その他()
- 7 わからない

問 10 県では、現行の「いわての森林づくり県民税」の制度を令和2年度までとしています。令和3年度以降、「いわての森林づくり県民税」を継続する場合、使いみちとして取り組むべきと考える取組は何ですか。必要と思われるものをすべてお選びください。

【森林の整備】

- 1 間伐による森林環境の整備
- 2 伐採後の未植栽地などへの造林(苗木の植栽)
- 3 花粉の少ないスギ苗木の生産
- 4 除伐、枝打ち、つる切りなどの森林整備(間伐、造林以外)
- 5 野生動物の出没の抑制を図るための見通しの良い里山等の整備
- 6 森林の整備や管理に必要な作業道等の整備

【森林の保護(被害の防止)】

- 7 シカ等による樹木への食害の防止対策
- 8 林内環境の健全化(松くい虫被害等の森林病虫害対策、景観の整備など)
- 9 山火事予防対策(防火帯の整備、山火事防止機材の整備など)

【森林への理解醸成・県民参加】

- 10 ボランティア活動など地域主体の森林づくり活動の促進
- 11 森林の役割や森林づくりの必要性の普及・啓発(森林・林業の役割等のPR、イベント開催など)
- 12 学校林整備を通じた森林整備に対する理解醸成
- 13 森林環境学習などによる森林とのふれあいの促進
- 14 県民が森林にふれあえる森林公園等の充実

【森林整備の担い手の育成】

- 15 森林整備を行う担い手の育成

【木材の利用】

- 16 県産木材等の利用促進(学校への机等の導入支援、企業等での県産木材製品の利用促進など)
- 17 木質バイオマスエネルギーの利用促進
- 18 木育の促進(木製玩具利用の促進や木製遊具の設置など)

【震災復興】

- 19 東日本大震災津波からの復興のために森林資源を活かす活動

【その他】

- 20 その他()

問 11 現在の「いわての森林づくり県民税」は5年毎に見直すこととしていますが、令和3年度以降、この県民税を継続する場合、その期間についてどう思いますか。

- 1 現状のまま(5年)でよい
- 2 もっと長い方がよい(年程度)
- 3 もっと短い方がよい(年程度)
- 4 わからない
- 5 その他()

問 12 現在の「いわての森林づくり県民税」の税金を納めている方一人あたりの負担額は、
 年 1,000 円としていますが、令和3年度以降、この県民税を継続する場合、その負担額についてどう思
 いますか。

- 1 現状のままでよい
- 2 もっと高くてもよい(円程度)
- 3 もっと安い方がよい(円程度)
- 4 わからない
- 5 その他()

問 13 岩手県の森林環境やその保全、身近な森林を守るため協力及び実践したいこと、「いわての森
 林づくり県民税」に関する御意見・御要望などがある場合は御記載ください。

問 14 最後に、お答えいただいた「あなた」御自身のことについておたずねします。

該当する箇所に○をつけてください。

性 別	1 男 2 女
年 代	1 10代 2 20代 3 30代 4 40代 5 50代 6 60代 7 70代 8 80代～
職 業	1 農林水産業 2 建設・製造業 3 サービス業 4 公務員・団体職員 5 専業主婦・主夫 6 学生 7 無職 8 その他()
森林所有の有無	1 ある 2 ない
お住まいの 市町村	1 盛岡市 2 八幡平市 3 滝沢市 4 雫石町 5 葛巻町 6 岩手町 7 紫波町 8 矢巾町 9 花巻市 10 北上市 11 遠野市 12 一関市 13 奥州市 14 西和賀町 15 金ケ崎町 16 平泉町 17 宮古市 18 大船渡市 19 陸前高田市 20 釜石市 21 住田町 22 大槌町 23 山田町 24 岩泉町 25 田野畑村 26 久慈市 27 二戸市 28 普代村 29 軽米町 30 野田村 31 九戸村 32 洋野町 33 一戸町

※ アンケートに御協力をいただき、ありがとうございました。
 この調査票をそのまま同封の返信用封筒に入れて投函くださるようお願いいたします。

※ 今後におきまして、当該アンケート結果などを踏まえて成果の検証を行うほか、さまざまな角度から
 今後の森林整備のあり方などについて検討を重ねて参りたいと考えています。

この印刷物には再生紙を使用しています。

いわての森林づくりに関する市町村アンケート調査票(案)

岩手県では、森林の環境を保全するために、これまで「いわての森林づくり県民税」を活用した取組を進めてきました。これらの成果の評価と今後の森林づくりなどの検討を行うため、今回、アンケート調査を行うものです。御協力をお願いします。

【実施機関：岩手県庁林業振興課】

【同封しています資料を御覧いただき、問1～6に対するお考え、御意見について、該当項目を○で囲むか御記入をお願いします。】

問1 県では、平成18年度に導入した「いわての森林づくり県民税」を活用して、森林環境を保全するため、下記のさまざまな取組を行っています。この森林環境保全の取組について、今後どのようにすべきとお考えですか。

- ア 間伐による森林環境の整備（「いわて環境の森整備事業」）
..... 1 より充実 2 このまま 3 縮小 4 廃止 5 わからない
- イ 県民が行う森林づくり活動の支援（「県民参加の森林づくり促進事業」）
..... 1 より充実 2 このまま 3 縮小 4 廃止 5 わからない
- ウ 児童生徒等を対象とした森林環境学習（「いわて森のゼミナール推進事業」）
..... 1 より充実 2 このまま 3 縮小 4 廃止 5 わからない
- エ 森林づくりのための啓発・PR（「いわての森林づくり普及啓発事業」）
..... 1 より充実 2 このまま 3 縮小 4 廃止 5 わからない
- オ いわての森林づくり県民税事業評価委員会の運営
..... 1 より充実 2 このまま 3 縮小 4 廃止 5 わからない

問2 現在の「いわての森林づくり県民税」の取組を今後も継続するとした場合、どう思いますか。

- 1 賛成
2 どちらかといえば賛成 } 問3へ
3 どちらかといえば反対 } 問4へ
4 反対
5 わからない

問3 問2で「賛成」、「どちらかといえば賛成」を回答した方にうかがいます。継続する場合の用途はどうすべきとお考えですか。

- 1 さらに拡大すべき
2 このままでよい
3 縮小して継続すべき
4 わからない

問4 問3で「どちらかといえば反対」、「反対」を回答した方にうかがいます。反対の理由はなんですか。

問5 県では、現行の「いわての森林づくり県民税」の制度を令和2年度までとしています。令和3年度以降、「いわての森林づくり県民税」を継続する場合、使いみちとして取り組むべきと考える取組は何ですか。必要と思われるものをすべてお選びください。

【森林の整備】

- 1 間伐による森林環境の整備
- 2 伐採後の未植栽地などへの造林（苗木の植栽）
- 3 花粉の少ないスギ苗木の生産
- 4 除伐、枝打ち、つる切りなどの森林整備（間伐、造林以外）
- 5 野生動物の出没の抑制を図るための見通しの良い里山等の整備
- 6 森林の整備や管理に必要な作業道等の整備

【森林の保護（被害の防止）】

- 7 シカ等による樹木への食害の防止対策
- 8 林内環境の健全化（松くい虫被害等の森林病虫害対策、景観の整備など）
- 9 山火事予防対策（防火帯の整備、山火事防止機材の整備など）

【森林への理解醸成・県民参加】

- 10 ボランティア活動など地域主体の森林づくり活動の促進
- 11 森林の役割や森林づくりの必要性の普及・啓発（森林・林業の役割等のPR、イベント開催など）
- 12 学校林整備を通じた森林整備に対する理解醸成
- 13 森林環境学習などによる森林とのふれあいの促進
- 14 県民が森林にふれあえる森林公園等の充実

【森林整備の担い手の育成】

- 15 森林整備を行う担い手の育成

【木材の利用】

- 16 県産木材等の利用促進（学校への机等の導入支援、企業等での県産木材製品の利用促進など）
- 17 木質バイオマスエネルギーの利用促進
- 18 木育の促進（木製玩具利用の促進や木製遊具の設置など）

【震災復興】

- 19 東日本大震災津波からの復興のために森林資源を活かす活動

【その他】

- 20 その他

問6 「いわての森林づくり県民税」に関する御意見・御要望などがある場合は御記載ください。

市町村名		
回答者	所属	
	職名	
	氏名	
	電話番号	
	メールアドレス	

※ アンケートに御協力をいただき、ありがとうございました。

いわて環境の森整備事業施工地の森林所有者調査票（案）

（面談または電話により、県機関が直接森林所有者から聞き取り）

○ 森林所有者について（可能な範囲内で確認）

氏名	
居住市町村	(県外の場合は都道府県)
性別	男 ・ 女
年代	20代 ・ 30代 ・ 40代 ・ 50代 ・ 60代 ・ 70代 ・ 80代以上
職業	
後継者の有無	有 ・ 無

○ 施工地の事業実施について

実施年度			
面積			
樹種			
伐採率			

問1 事業実施後、所有山林を直接見たか

- 1 見た →問1-1へ
- 2 見ていない →問1-2へ

問1-1 実際に整備された山林を目にして、どう感じたか

- 1 山林（経営）に興味を湧いた
- 2 特に何もない
- 3 その他（)

※整備してもらったことへの感謝等は記載不要

問1-2 見に行かない理由はなぜか

- 1 興味がないから
- 2 見に行きたいが、（身体の調子等で）行けないから
- 3 その他（)

問2 今後、施工地をどのようにしていくか

- 1 既に自分で追加の間伐を始めた（森林組合等に委託して間伐した）
- 2 今後、自分で間伐を行いたいと思っている（森林組合等に委託して間伐したい）
- 3 数年後、また県に強度間伐（混交林誘導伐採）をしてもらいたい
- 4 何もしない（放置する）
- 5 わからない

問3 事業を実施した山林の森林整備を進めるためにどのような支援を希望するか（複数回答可）

- 1 補助制度の充実
- 2 数年後に、再び環境の森整備事業を実施
- 3 補助制度の情報提供や適切な間伐時期等の技術指導
- 4 必要ない
- 5 その他（)

問4 その他、事業について意見・要望

--

[調査者]

現地機関名		
調査者	職名	
	氏名	
	電話番号	
	メールアドレス	

「いわての森林づくり県民懇談会」の開催予定について

1 開催趣旨

本県の県土の77%を占める森林を県民みんなの財産として将来に良好な状態で引き継いでいくため、県では、平成18年度から「いわての森林づくり県民税」を導入し、県民の皆様の御協力のもと、森林を守り育む取組を進めてきたところ。

この「いわての森林づくり県民懇談会」は、令和2年度に「いわての森林づくり県民税」が15年目を迎えることから、これまでの取組の実績を踏まえて、県民の森林との関わりや今後の森林整備のあり方について、広く県民や関係団体等の皆さんとともに考え、理解を深める機会として開催するもの。

2 日時・場所（予定）

広域	期日	時間	場所
沿岸広域	令和元年10月1日(火)	14:00~16:30	釜石地区合同庁舎大会議室
盛岡広域	〃 10月2日(水)	14:00~16:30	岩手県公会堂21号室
県南広域	〃 10月3日(木)	14:00~16:30	奥州地区合同庁舎大会議室
県北広域	〃 10月31日(木)	14:00~16:30	久慈地区合同庁舎大会議室

3 参集者

区分	参集者数
県民（納税者）	4～5名程度
森林所有者（環境の森整備事業の協定締結者等）	4～5名程度
地域の森林づくり団体（県民参加の森林づくり促進事業実施団体等）	4～5名程度
林業等関係団体・事業体（森林組合、素材生産業者等）	4～5名程度
計	16～20名程度
オブザーバー	
いわての森林づくり県民税事業評価委員	—
市町村職員、振興局職員等	—

4 内容

林務担当技監が座長となり、懇談会形式で、出席者からご意見を伺う。

- (1) いわての森林づくり県民税の取組の実績について
- (2) 本県の森林・林業を取り巻く状況や課題について
- (3) いわての森林づくり県民税の今後の方向性について